

## 来日予定のベトナム人の保健行動に関する研究

「HIV 検査と医療へのアクセス向上に資する多言語対応モデルの構築に関する研究」班

研究協力者 Tran Thi Hue エイズ予防財団リサーチレジデント

研究代表者 北島 勉 杏林大学総合政策学部教授

研究分担者 沢田 貴志 神奈川県勤労者医療生活協同組相港町診療所所長

研究分担者 宮首弘子 杏林大学総合政策学部教授

### 研究要旨

近年ベトナム出身の留学生や技能実習生が増加している。2019年4月には特定技能一号という在留資格が創設され、今後ベトナムを含む外国からの労働者が更に増加することが予想される。そこで、本研究は、来日前と来日後の彼らの健康状態やHIV感染リスクの変化を観察するために、技能実習生または留学生として近い将来来日する人を対象として、来日前と来日後(3か月後、6か月後)の健康状態やHIV感染リスクの状況について調べることを目的とする。ベトナムから、2020年に日本語学校の留学生又は技能実習生として来日する予定がある人を対象に、保健行動、HIVに関する知識と主観的感染リスク、健康状態、生活満足度などについてベースライン調査と、来日後3か月後と6か月後のフォローアップ調査を実施した。この研究はコホート研究であり、データ収集は自記式質問票により、調査用のWebsiteで行われた。調査期間は2020年03月から2020年5月であった。ベースライン調査では182人から協力を得られた。フォローアップ調査では、両国のCOVID19感染拡大防止の入国制限措置によって、来日した11人の中で、参加同意したのが3人であった。参加者が少なかったことから結果の解釈は限定的であるが、ベースライン時点との比較では、日本ではHIV検査受検に興味を持っていること、生活の質と健康観の改善が観察できた。今後は、ベースライン調査で来日していないグループと来日1年後に彼らの状態の変化を追跡し、どのような支援が必要かを検討したい。

#### A. 研究目的

近年ベトナム出身の留学生や技能実習生が増加している<sup>1)</sup>。2019年4月には特定技能一号という在留資格が創設され、今後ベトナムからの労働者が更に増加することが予想される。

来日する人々は、異国において勉強をしたり仕事をしたりすることを選択する体力と気力がある人が多いことが想定されるが、生活環境の変化や厳しい労働環境が、彼らの健康上のリ

リスクを高めることが危惧される。また、多くの留学生や技能実習生は、性的に活動的な年齢層が多いことから、HIV を含む性感染症のリスクが高くなる可能性がある。そこで、本研究は、来日後の彼らの健康状態や HIV 感染リスクの変化を調査するために、技能実習生または留学生として近い将来来日する人を対象として、健康状態や HIV 感染リスクの状況について来日前と来日後のフォローアップ調査を行い、その変化を分析する目的とする。

## B. 研究方法

### (1) 調査対象

ベトナムから、2020 年に日本語学校の留学生又は技能実習生として来日する予定がある人とその中で来日した人。

### (2) 調査方法

ベトナム国のハノイ市とホーチミン市の日本語学校や労働者派遣事業所等の協力を得て、対象者の日本に出発する前の基本属性、健康行動、健康状態、性行動、HIV に関する知識やリスク意識、HIV 検査へのアクセス、生活満足度、精神保健の状態、ソーシャルサポート、主観的社会階層などについて、質問票による面接調査により調べた。WHO-BREF のスコアについては、身体的健康、精神状態、社会的関係、環境の 4 つのドメインについてスコアを算出した。精神保健の状態については、Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D)を、ソーシャルサポートについては、Multidimensional Scale of Perceived Social Support (MSPSS)を使用した。更に主観的社会階層については、10 段のはしごの絵における

自身の社会的位置を回答してもらった。調査期間は 2020 年 03 月から 2020 年 5 月であった。

その後、来日した人について、同様の調査方法を用い、来日 3 か月後と 6 か月後の時点で調査を行った。

### (倫理面への配慮)

本研究の実施に関し、研究代表者が所属する杏林大学大学院国際協力研究科の研究倫理委員会から承認を得た。

## C. ベースライン調査の研究結果

### (1) 基本属性

全部で 182 人から協力を得られた。対象者の平均年齢は 21.5 歳(±3.65)、男性が 140 人(76.9%)、未婚が 161 人(88.5%)であった。学歴は高卒が 148 人(81.3%)、男性の友人と同居している人が 90 人(49.5%)と最も多かった。現在の職業について「学生」が 46 人(25.3%)、「無職」45 人(24.7%)であった。

### (2) 日本語能力

日本語力の自己評価については、会話が「少しできる」または「できる」174 人(95.6%)、平仮名とカタカナが「少し読める」または「読める」129 人(70.8%)、漢字を「少し読める」または「読める」125 人(68.7%)であった。

### (3) 健康習慣

飲酒については、飲んでいないのは 106 人(58.2%)、週に 1 回以下 44 人(24.2%)であった。過去 3 ヶ月間に薬物を使用した者は一人

いた。一般的な健康状態は「完璧」「極めて良い」174人(95.5%)と最も多かった。

#### (4) 性行動

セクシャリティーについては、異性愛者 179人(98.4%)、同性愛者 2人(1.1%)であった。これまで性行為(膣、肛門、口腔)をしたことがあると回答した者は 95人(52.2%)であった。初交年齢の中央値は 19歳で、最小値 16歳、最大値 29歳であった。過去 6ヶ月に性行為をしたと回答した者は 63人(34.6%)で、46人(25.3%)は 1人のみと性行為を行っており、40人が毎回コンドームを使用していたと回答していた。過去 6ヶ月間にセックスワーカーと性行為をしていたと回答した者は 8人で、8人が毎回コンドームを使用したと回答した。過去 6ヶ月間に男性と性行為をした男性が 3人で、2人が毎回コンドームを使用したと回答した。過去 12ヶ月に性感染症に罹ったことがあると回答した者が 1人(梅毒)であった。

#### (5) HIV に関する知識と主観的リスク

HIV に関する知識スコアの平均値(最低点 13点、最高点 24点)は 21.0点(±1.57)、最小値 15点、最大値 24点であった。HIV 感染に対する主観的リスクスコア(最低点 8点、最高点 41点)の平均値は 14.8点(±5.26)、最小値 8点、最大値 41点であった。

#### (6) HIV 検査へのアクセス

ベトナムで HIV 検査へのアクセスが良いと回答した者は 149人(81.9%)、どこで HIV 検査を受けられることを知っている者は 153人

(84%)、HIV 検査を受けたことがある者 36人(19.8%)であった。HIV 検査を受けた理由として「友人のすすめ」「医師のすすめ」がそれぞれ 11人と 10人(6.0%,5.5%)であった。HIV 検査を受けたことがない 146人(80.2%)が、これまで受けなかった理由として最も重要だったものは「感染リスクが低い」が 134人(91.8%)で最も多かった。ベトナムでは無料・匿名で HIV 検査が受けられることを知っていると回答した者は 65人(35.7%)しかいないであるが、将来 HIV 検査を受けることによどの程度興味があるかの質問には、「全く興味がない」45人(24.7%)、「あまり興味がない」67人(36.8%)で最も多く、「どちらでもないない」13人(7.1%)、「やや興味がある」41人(22.5%)、「とても興味がある」16人(8.8%)であった。

#### (7) HIV に関連するスティグマと差別

家族が HIV に感染した場合、それを秘密にしたいと思う者は 161人(88.5%)、HIV に感染した家族を喜んで世話をすると回答した者は 117人(64.3%)であった。HIV 感染者が販売している食品であると知っていてもそれを購入すると回答した者は 93人(51.1%)、HIV に感染しているが症状がない教師が学校で教え続けても良いと思う者は 114人(62.6%)であった。

#### (8) 寂しさとうつに関するスコア(CES-D)

寂しさとうつに関するスコアは平均が 11.3点(±5.0)、最小値 2点、最大値 31点であった。スコアが 16点以上であった者が 30人(16.5%)であった。

#### (9) ソーシャルサポート

サポートスコアは、それぞれ配偶者またはパートナーから 20.4(±5.8)、家族から 21.7(±5.6)、友人 19.5 (±5.3)、合計 64.6(±15.5)であった。

#### (10) WHOQOL-BREF

全般的な生活の質と健康感に関するスコア(各 5 点満点)はそれぞれ 3.7(±0.6)、4.1(±0.7)であった。各ドメインのスコアについては、身体的領域 16.3(±1.8)、最小値 8.6、最大値 20、心理的領域 24.1(±4.2)、最小値 6.7、最大値 18、社会的関係 14.7(±2.5)、最小値 4、最大値 20、環境領域 13.3(±2.4)、最小値 4、最大値 19 であった。

#### (11) 主観的社会的位置

ベトナムでは、10 段階における社会的位置の平均値は 5.7(±1.4)、最小値 1、最大値 10 であった。

#### D. フォローアップ調査の研究結果

2020 年 04 月から COVID-19 の感染拡大防止のために行われている両国の入国制限政策によって、ベースライン調査に参加した 182 人の内、来日したのは 11 人であった。その中で、3 か月と 6 か月のフォローアップ調査に参加同意したのは 3 人であった。以下で、3 か月と 6 か月のフォローアップ調査を終了した 3 人を分析対象とした。対象者全員男性で技能実習生として来日しており、平均年齢は 20.3 歳であった。以下では、ベースライン調査との比較で、保健行動の変容について検討する。

##### (1) 健康習慣と性行動

3 人ともアルコールと薬物を使用しなく、過去 3 か月と 6 か月に性行為をしないと回答した。一般的な健康状態は 3 人とも過去 3 か月と 6 か月間に「完璧」であり、その中 1 人が医療従事者に相談に行ったことがある。

#### (2) HIV 検査へのアクセス

日本で HIV 検査へのアクセスが良いと回答した者は 1 人(30%)、どこで HIV 検査を受けられることを知っている者はいなかった。日本に来てから、HIV 検査を受けたことがあるものはいなかったが、その理由として最も重要だったものは「感染リスクが低い」とベースライン調査の結果と変わらなかった。そのうち、1 人が「どこで HIV 検査を受けられるか知らない」と答えた。また、日本で無料・匿名で HIV 検査が受けられることを知っている者と回答した者はいなかった。

将来、HIV 検査を受けることにどの程度興味があるかとの質問には、来日 3 か月後「あまり興味がない」3 人であったが、6 か月後「興味がある」1 人と「あまり興味がない」2 人であった。

#### (3) HIV に関する主観的リスク・寂しさとうつ・ソーシャルサポート・生活の質のスコア

HIV に関する主観的リスクや CES-D, MSPSS, QOL のスコアに関して、ベースライン調査と来日 3 か月後と 6 か月後との変化を比較した結果を表 1 に示す。HIV に関する主観的リスクにおいて、両方ともベースライン時点と比較し、平均得点が上昇し、つまり HIV に関する主観的リスクが高くなっていた。

寂しさとうつに関するスコアについて、ベース

ラインの値と比較し、来日 3 か月後、平均値が上昇したが、6 か月後には低下した。ソーシャルサポートの項目においても、来日 3 か月後平均値が上昇したが、6 か月後大きく低下し、同じ傾向を見せた。

生活の質と健康観に関して、すべての項目において、両方ともベースライン時点と比較し、平均得点の上昇、つまり生活の質と健康観の改善を示した。

表1 ベースライン調査と3か月後・6か月後フォローアップ調査の研究結果の比較

項目	ベースライン (N=182)	3か月 (n=3)	6か月 (n=3)
HIVに関する主観的リスク	14.8±5.26	14.3±1.52	16.7±7.76
寂しさとうつに関するスコア	11.3±5.0	16.3±9.29	10±6.55
ソーシャルサポート	64.6±15.5	67.3±6.42	49.6±24.9
パートナー	20.4±5.8	21.6±3.51	17.3±6.35
家族	21.7±5.6	25.6±2.08	17.0±11.3
友人	19.5±5.3	20.0±2.64	15.3±7.37
生活の質と健康観	3.7±0.6 4.1±0.7	3.3±0.57 4.0±1.0	4.3±0.57 4.0±1.0
身体的領域	16.3±1.8	15.0±2.81	15.6±1.74
心理的領域	24.1±4.2	13.7±2.52	14.2±2.69
社会的関係	14.7±2.5	14.6±3.52	14.2±2.03
環境領域	13.3±2.4	12.6±4.36	12.6±1.04
主観的社会的地位	5.7±1.4	6±2.82	6.3±1.52

#### E. 考察

2020年03月から2020年05月に、ベトナムのハノイ市とホーチミン市において、技能実習生または日本語学校の留学生として、近い将来来日する予定のベトナム人を対象に、彼らの保健行動、HIVに関する知識や感染リスク、健康状態などについてベースライン調査を行った。182人から協力を得られた。回答者の7割は男性で、平均年齢は22歳と若く、主観的健康感が高かった。その後、来日3か月後と6

か月後のフォローアップ調査を終了した3人を分析対象とし、ベースライン調査との比較で、保健行動の変容について分析した。

HIV主観的リスクスコアに関して、フォローアップ調査ではベースライン時点と比較し、平均得点が増加した。寂しさとうつに関するスコアについて、ベースラインの値と比較し、来日3か月後、平均値が16.3点でうつが疑われる割合が高かったが、6か月後には低下した。ソーシ

サルサポートの項目においても、来日3か月後  
平均値が上昇したが、6か月後大きく低下し、  
同じ傾向を見せた。

生活満足度については、ベースライン調査で  
得られた値との比較では、身体的領域、心理  
的領域、社会的関係についてフォローアップ  
調査ではすべての評価項目において上昇を  
見せ、生活の質と健康観の改善を示した。

今後は、ベースライン調査で協力したグルー  
プとフォローアップ調査に参加した人を来日1  
年後、彼らの主観的HIV感染リスク、HIV検査  
へのアクセス、保健行動、生活満足度等がど  
のように変化するかを追っていききたい。

#### E. 結論

調査に参加した回答者は若く健康的であっ  
た。異国に行き仕事や勉強をしたいと考えて  
いる意欲的で体力にもある程度の自信がある  
人が多いということと考えられる。HIVに関する  
知識やリスク意識に関するスコアについては、  
来日後改善されたことが考えられる。ベトナム  
でのHIV検査受検割合は、高かった。今後は、  
来日後の彼らの健康状態やリスク意識や行動、  
HIV検査へのアクセスが変化するか否かフォロ

ーしていききたい。

#### 参考文献

1) 法務省 令和元年末現在における在留外  
国 人 に つ い て  
(<http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouho>  
[u/nyuukokukanri/04\\_00003.html](http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/04_00003.html), 令和3年3  
月28日閲覧)

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし